

我々は、慣れぬ外地にありながら、アンカレッジ、バクソンと順調な旅を続けていたが、いよいよベースキャンプ建設の段に至って、セスナ機の氷河上着陸失敗と言う。思いがけないアクシデントに会い、負傷者こそださなかったが、その後の計画に大巾な変更を余儀なくされた。ヒマラヤやアンデスでのキャラバンによるベースキャンプ建設とは異ったアラスカでの登山活動をするにあたって、文明の利器である軽飛行機使用は、えてして、安易に考えられがちであるが、その実、裏には大きな危険性を含んでいるようである。

<事故経過>

予定通り、バクソンより、ヘイズ山の北東面にあるトライデント氷河上にベースキャンプを建設するべく、6月16日バクソンでパイロットのシエルダン氏と打合せの結果、第一便で、中野、宮本、松本の三名が若干の物資とともに飛ぶことになり、10時すぎにテイク・オフする。約一時間のフライトでヘイズ山に近づき、トライデント氷河上に入るが、クレバスの状態悪く着陸出来なかった。機上でパイロットと検当の結果、ヘイズ山の南東面にあるスーイトナ氷河に着陸することにし、二度の図の後、着陸態勢にはいる。ところが、着地したと同時に突風をうけ、ソリが雪面にささり、機はそのままトンボ返りしてしまふ。機体は天井を下に雪面にたたきつけられたが、幸にも翼が屋根の位置にあった為に、重量を支える面積が広く、クラッシュされることをまぬがれた。ただちに脱出にかかるが、荷物が散乱し、直逆さの状態ではシートベルトがうまくはずせず苦勞させられた。こうして、あっけなく起きてしまったアクシデントではあったが、松本とシエルダン氏とが、顔面に軽傷を負っただけですんだのはラッキーであった。機体は大破し、プロペラも、翼もひんまがって、全く飛行不可能になってしまい、未知の氷河上に人間四人、ボツネンとほりだされてしまったのである。その後は、バクソンに残っていた安沢、苗村の二名が、夕刻になって、シエルダン氏の飛行場があるタルキートナと連絡をとり、ブッシュ・パイロットのジャック・ウィルソン氏や米軍空軍の捜索が行なわれ、その日の夜中2時すぎ、シエル

ダン氏は米国空軍のヘリコプターによって救出された。我々三名はそのまゝ計画続行の為氷河上に残ったのであるが、その日から天候がくずれ、第二便は数日間飛ばずムダな日を送ってしまう。それから6日目の22日、やっと天候も回復し第二便（第一便でセスナ機が失われた為、パイパー機）が飛来したが、同地点には着陸出来ず、エアドロップによって物資輸送を行ない、二名の隊員は、約20 km 下の氷河に降り、徒歩にてベースキャンプに到着したのであるが、それは事故以来8日目の24日であった。その間、氷河上の三名は、一応の生活具、食糧はあったものの、日がたつにつれ、主食・ガソリンが欠乏し、ツェルトの中で、空腹と煙草切れに悩まされてしまった。

<今後の問題点>

今回の事故は、そうそうあるものではないが、天候の急変等によっても、氷河上と残留隊員とが一時的に連絡不可能になるケースは充分に考えられることである。こうした事態に対処出来るために、最底、以下のことを考えておく必要があると思われる。














先ず、着陸地点からの徒歩による退却ルートの検討があげられる。軽飛行機の利用はアプローチを短縮し、安易にしてくれる。しかしながらメンバーの力としては、長い氷河無数のクレバス、大河の渡渉に充分対処出来るだけのものが欲しい、次にアラスカには通信基地も多いので通信機の積極的利用がある。これが備えられておれば、チェックフライトの必要もなくなる（我々は期間中二回のチェックフライトを予定したが、いずれも荒天の為失敗に終わった）。又当然のことではあるが、第一便には最底の生活具、食糧を忘れずに搭載するべきである。

その他に、パイロット仲間が使っているグランド・マークと飛行機の応答による連絡方法があるので、参考までにしるしておきたい。

何にしても、軽飛行機を利用した登山活動は、便利さの反面、チェック・フライトが予定日になかったり、ピックアップ予定日にむかえにこななかったりした場合、想像以上に不安感をいだかせるものである。そうなってくる

と、ヒマラヤの長いキャラバンであっても、歩きさえすれば部落に出られる。
 一本の細径があった方が良いと思ったのが実感であった。

VISUAL EMERGENCY SIGNALS

<p>NEED MEDICAL ASSISTANCE - URGENT USED ONLY WHEN LIFE IS AT STAKE</p>  <p>LIE PRONE</p>	<p>ALL OK - DO NOT WAIT</p>  <p>WAVE ONE ARM OVERHEAD</p>	<p>CAN PROCEED SHORTLY - WAIT IF PRACTICAL</p>  <p>ONE ARM HORIZONTAL</p>	<p>NEED MECHANICAL HELP OR PARTS - LONG DELAY</p>  <p>BOTH ARMS HORIZONTAL</p>	<p>DO NOT ATTEMPT TO LAND HERE</p>  <p>BOTH ARMS WAVED ACROSS FACE</p>
<p>LAND HERE</p> 	<p>USE DROP MESSAGE</p> 	<p>OUR RECEIVER IS OPERATING</p> 	<p>NEGATIVE (NO)</p> 	<p>AFFIRMATIVE (YES)</p> 
<p>BOTH ARMS FORWARD HORIZONTALLY, SQUATTING AND POINTING IN DIRECTION OF LANDING - REPEAT</p>	<p>MAKE THROWING MOTION</p>	<p>CUP HANDS OVER EARS</p>	<p>WHITE CLOTH WAVED HORIZONTALLY</p>	<p>WHITE CLOTH WAVED VERTICALLY</p>
<p>PICK US UP - PLANE ABANDONED</p>  <p>BOTH ARMS VERTICAL</p>	<p>AFFIRMATIVE (YES)</p>  <p>DIP NOSE OF PLANE SEVERAL TIMES</p>	<p>NEGATIVE (NO)</p>  <p>FISHTAIL PLANE</p>	<p>HOW TO USE THEM</p> <p>IF YOU ARE FORCED DOWN AND ARE ABLE TO ATTRACT THE ATTENTION OF THE PILOT OF A RESCUE AIRPLANE, THE BODY SIGNALS ILLUSTRATED ON THIS PAGE CAN BE USED TO TRANSMIT MESSAGES TO HIM AS HE CIRCLES OVER YOUR LOCATION. STAND IN THE OPEN WHEN YOU MAKE THE SIGNALS. BE SURE THAT THE BACKGROUND, AS SEEN FROM THE AIR, IS NOT CONFUSING. GO THROUGH THE MOTIONS SLOWLY AND REPEAT EACH SIGNAL UNTIL YOU ARE POSITIVE THAT THE PILOT UNDERSTANDS YOU.</p>	

2-16-53

GROUND TO AIR EMERGENCY CODE DISTRESS SIGNALS

<p>REQUIRE DOCTOR, SERIOUS INJURIES ----- I</p> <p>REQUIRE MEDICAL SUPPLIES ----- II</p> <p>UNABLE TO PROCEED ----- X</p> <p>REQUIRE FOOD AND WATER ----- F</p> <p>REQUIRE FIREARMS AND AMMUNITION ----- V</p> <p>REQUIRE MAP AND COMPASS ----- □</p>	<p>REQUIRE SIGNAL LAMP WITH BATTERY AND RADIO ----- I</p> <p>INDICATE DIRECTION TO PROCEED ----- K</p> <p>AM PROCEEDING IN THIS DIRECTION ----- ↑</p> <p>WILL ATTEMPT TAKE-OFF ----- ▷</p> <p>AIRCRAFT SERIOUSLY DAMAGED ----- L 7</p> <p>PROBABLY SAFE TO LAND HERE IF IN DOUBT, USE INTERNATIONAL SYMBOL ----- Δ</p>	<p>REQUIRE FUEL AND OIL ----- L</p> <p>ALL WELL ----- LL</p> <p>NO ----- N</p> <p>YES ----- Y</p> <p>NOT UNDERSTOOD ----- LL</p> <p>REQUIRE MECHANIC ----- W</p>
---	--	--

INSTRUCTIONS:

1. Lay out symbols by using strips of fabric or parachutes, pieces of wood, stones, or any available material.
2. Provide as much color contrast as possible between material used for symbols and background against which symbols are exposed.
3. Symbols should be at least 10 feet high or larger, if possible. Care should be taken to lay out symbols exactly as shown to avoid confusion with other symbols.
4. In addition to using symbols, every effort is to be made to attract attention by means of radio, flares, smoke, or other available means.
5. When ground is covered with snow, signals can be made by dragging, shoveling or tramping the snow. The depressed areas forming the symbols will appear to be black from the air.
6. Pilot should acknowledge message by rocking wings from side to side.